

# 令和7年度日本大学三島高等学校・中学校

## 自己点検・評価及び学校関係者評価票

日本大学三島高等学校・中学校

自己点検・評価及び学校関係者評価について、生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校経営及び運営の改善と発展を目指し、本校は以下の3点を目的として実施している。

- ① 本校の教育活動や学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さなどについて評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。
- ② 自己点検・評価及び保護者等学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者等から理解と参画を得て、学校・家庭等の連携協力による学校づくりを進める。
- ③ 自己点検・評価及び学校関係者評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育の質を保証し、その向上を図る。

方法については、平成28年3月改訂「学校評価ガイドライン」(文部科学省)を参照し、具体的には「教育活動」「学校生活への配慮」「進路指導」「管理運営」の4点の評価項目に分け、取組内容について、その達成度をA～D(A:十分達成できた B:達成できた C:おおむね達成できたが改善も必要 D:改善が必要)の4段階で評価している。なお、令和7年度は、以下の4点を重点項目とした。

- ① 教育活動  
「学習習慣を身につけ、学力向上に取り組む」
- ② 学校生活への配慮  
「多様性をキーワードに、集団生活のルールやマナーを徹底する。いじめ防止のための取組。特に日常生活における生徒指導の徹底」
- ③ 進路指導  
「一人ひとりの目標に合わせた進路指導の実践と進学実績づくり」
- ④ 管理運営  
「生徒募集における募集定員の確保を目標とした入試広報活動の改善」

### 令和7年度取組評価

#### 1. 教育活動

評価内容 学習習慣を身につけ、学力向上に取り組む

評価方法	取組評価	評価に対する意見等
自己評価	B	生徒の自学自習への取組を強化すべく、スタディデザインセンターを開設し、放課後学習への取組を始動した。 「生徒による授業評価アンケート」の「生徒自身に関わる項目」において、「家庭学習の実施」は学校の平均値が3.14(4点満点中)であった。これは付属全高校平均(3.18)を下回るという結果であった。自学自習は、今後の課題である。
学校関係者評価	B	計画内容は、おおむね達成していると感じられる。スタディデザインセンターの狙いをもっと明瞭に、浸透させた方が良い。予習・復習に関する数値が低い。学びに対する主体性や内発性を高めることで、自分の道を切り開く力にひもづけたり、進路の選択肢を増やしたりすることが可能であると考え。授業と家庭学習の関わり、家庭学習を促す授業づくりという視点も必要かと思われる。

#### 2. 学校生活への配慮

評価内容 多様性をキーワードに、集団生活のルールやマナーを徹底する。いじめ防止のための取組。特に日常生活における生徒指導の徹底

評価方法	取組評価	評価に対する意見等
自己評価	A	いじめ防止の取組として各学期に学校生活に関するアンケートを実施し、情報を得て未然に防ぐようにしている。また特別支援コーディネーターによる委員会を設置し、定期的に教員間と情報交換を行うことができた。
学校関係者評価	A	安心して過ごせる環境である。それを生徒の自主性に任せた際も同様の安心感が得られるよう、生徒の意識向上が求められる。 学校生活に関するアンケートも実施され、問題を未然に防ぐ意識も高い。悩みのある場合に相談できる場や日常を話せる憩いの場が設けられると良いと思う。 校外においても社会の一員として、交通ルールやマナーを遵守してほしい。

#### 3. 進路指導

評価内容 一人ひとりの目標に合わせた進路指導の実践と進学実績づくり

評価方法	取組評価	評価に対する意見等
自己評価	A	生徒及び保護者を対象に日本大学の進学相談に関して延べ8回実施し、日本大学以外の大学説明会や看護医療系進学講座を実施するなど、生徒の第一希望の進路実現を目標に進路指導を実践することができた。
学校関係者評価	A	付属校の強みや安心感を生かした進路指導が行われている。様々な進路にも対応し、生徒に寄り添い、希望に沿った進路選択が可能となっている。 また、探究の授業を踏まえ、大学での学修に備えるという点でも、主体的な学びを促進することが進路指導に関わると考えられる。

#### 4. 管理運営

##### 評価内容 生徒募集における募集定員の確保を目標とした入試広報活動の改善

評価方法	取組評価	評価に対する意見等
自己評価	A	高等学校は、就学支援金の拡充の影響もあったためか、令和8年度入試において単願受験生及び中高一貫生で募集定員（580名）を満たす結果となった。中学校は募集定員（60名）を満たすことはできなかったが、目標である50名以上は達成できた。
学校関係者評価	A	説明会は、丁寧で分かりやすく、質問に対しても細かく対応していた。 ホームページでのコース紹介も充実していて、学校生活が想像できて良い。 パンフレットも付属校の強みが活かされている。また、探究活動が前面に打ち出され、生徒の声も掲載されており、その成果も十分読み取れる。ただし、探究活動を通じ、どのように学びの変容や成長があり、どのような進路実現に至ったかという事案がない。探究活動の意義と進路実現の結びつきを、適したフレーズやキャッチコピーとともに掲載すれば、その訴求力も高まると感じている。

#### 5. その他

上記の4項目以外に自由記述で挙げられたものを記載する。

- ・生徒の主体性を育むために必要な取組について、探究的な活動に対する取組は高く評価している。今後も継続するとともに、スクール・ミッションにあるようにリーダーシップの意味を考えた生徒の育成に取り組んでほしい。
- ・大学進学決定者の高校3年生の学習について、大学入学前の課題への対応まで面倒を見てほしいという要望があった。
- ・放課後学習支援システムの導入については、良い取組であることは理解できるが、保護者が見学する機会を作るなど、一層の理解が得られる取組を考えた方が良いのではないか。
- ・令和8年4月より自転車利用者の交通ルールが厳しくなることもあるが、交通事故防止を踏まえた交通ルール遵守の徹底や公共施設におけるマナーを守る生徒指導をお願いしたい。

以 上